

旧大川小で犠牲鈴木君の遺品

東日本大震災から12年8カ月の月命日となる11日、石巻市の伝承交流施設「MEET門脇」で、津波で犠牲になった同市の旧大川小6年鈴木堅登君(当時12)が着用していたジャンパーの展示が始まった。来年

石巻

1月まで。

ジャンパーは、堅登君が震災当日に着用していた。旧大川小4年で行方不明の妹巴那さん(同9)の手掛かりを探している母実穂さん(55)らが、2012年に旧校舎近くの泥の中から

妹のランドセルの隣に展示

見つけた。津波の力でちぎれていた左の袖口は、19年にはほぼ同じ場所から見つかった。

今年7月から展示している巴那さんのランドセルの隣に置かれた。堅登君が3年の時に妹との思い出を記した作文も置かれ、妹思っていた兄の様子を伝える。

津波で児童・教職員計84人が犠牲になった旧大川小は現在、市の震災遺構になっている。実穂さんは「ランドセルと共に子どもたちに震災を伝え、見た人が大川小に足を運ぶきっかけにしてほしい」と話した。

思い出尽きぬ兄のジャンパー



妹のランドセルの隣に展示されている堅登君のジャンパー

東日本大震災

12年8カ月